

私立大学情報教育協会
平成28年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

F-2班わらびもち

F-2班わらびもちの紹介
年齢不詳のリーダーと影の番
長の支配するチームです。

発表テーマ

学生が
社会で生き抜く力
を付けるには？

学生が社会で生き抜く力を付けるには？

問題点の深堀

他グループと問題点を共有するために、グループ討議で話し合われたことを列挙する。

- ・ 社会の急激な変化
- ・ 2018年問題（18歳人口の減少）
- ・ 古い大学の体質：なかなか変わらない
- ・ 文科省の政策転換
- ・ アクティブ・ラーニング等，多様な授業スタイルの進展
- ・ 職員・教員の多忙化

等々・・・

テーマ選定理由(1) 大学の役割

私たちが考えた大学の役割

- ・ 「社会で生き抜く力」を学生につける
→では、「社会で生き抜く」力とは？

例：3年以内離職率の低下，職場での活躍，グローバル化に適応
(抽象化して.....)

①主体性，②適応力，③考える力，④柔軟性，⑤知力，⑥専門性

人間にしかできない力 (=人間力)

を身につけてもらうには職員として何をすべきか？

学生が社会で生き抜く力を付けるには？

テーマ選定理由(2) 大学の現状

役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか
大学の現状はどうだろうか？

・ 「きっかけ」(機会)作り

例：大学を知ってもらう (現状のオープンキャンパスでは不十分)

ICT / アクティブ・ラーニング

(金銭面 / 実際に活用されているか?)

留学 (時間・金銭・カリキュラム)

異文化交流 (認知度)

課外活動 (学業とのバランス)

学生が社会で生き抜く力を付けるには？

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

そのために必要なものは.....？

「教職協働」の推進
→直接的に教育をするのは教員

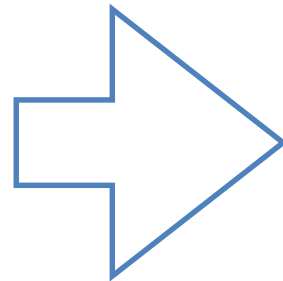
学生が社会で生き抜く力を付けるには？

解決策の検討

他グループと、解決策が導き出されたプロセスや、背景にある考え方を共有するために、グループ討議で話し合われたことを整理して記載する。

教員：①給与（カネ） or ②研究時間の少なくともどちらかの担保
→教員にとって「働きやすい環境」の醸成
(≒職員にとって働きやすい環境の醸成)

⇒ ・教員の協力的な態度
・長く勤められる



教育（学び）
の質の向上

学生が社会で生き抜く力を付けるには？

大学のイノベーションの提案

・提案の概要

◎教員を知る：専門性（強み）等

◎大学を知る：建学の精神等

◎ICTの活用（Web会議、決裁etc...）

・解決されたときの姿（どのような状況になれば目的が達成されたといえるのか？）

学生が社会で生き抜く力を付けるには？

大学のイノベーションの提案

・ Web ・ テレビ会議

メリット 出張先や研究室から会議に参加することができ、同時に記録等の保存ができる。

・ Web決済 → タブレットで指紋認証

メリット 別の建物への移動時間や、保存書類の検索が容易。また、上司が出張先でも確認ができる。

・ 出欠管理システム化 → 学生証ICチップ

メリット 出席カード等のカウントが不要で、出席率等がすぐに算出できる。また、教職員や保護者、本人が管理しやすい。